



教育支援センターだより

花かおり
緑あふれ
人輝くまち
こうのす



- 教育相談事業
- 適応指導教室事業
- 特別支援教育事業
- 研修事業

12月号 令和7年度 第9号
令和7年 12月18日発行(通算189号)

鴻巣市立教育支援センター
〒369-0133 鴻巣市小谷1890番地1
TEL 048-569-3181
FAX 048-569-1773



ダメな自分を引き受ける

臨床心理士 福島 弘美

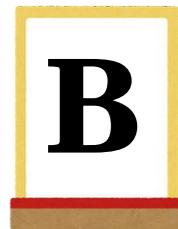
生まれたばかりの赤ちゃんは、授乳や排せつ、入浴、着替えと生活のすべてをケアされながら成長します。初めてのお誕生日を迎える頃には少しずつ自我が芽生えて、自己主張が始まります。お世話が中心だった子育ても、子どもの意思と向き合う、次のステージに入っていきます。やがて2・3歳になる頃には、いよいよおむつをはずして排泄の自立へと踏み出します。

さて、このトイレトレーニングは身辺自立の一つであるとともに、心の育ちにとって大切な意味があります。トイレで排泄をするという目標に向かって親子で日々トレーニングに取り組む中で、子どもは自分の体と心に注意を向けて、コントロールすることを学びます。当然失敗することもあれば、一向に進まない場合もあることでしょう。この時、自分は失敗する人間であること、失敗しても受け入れてもらえること、失敗してもまた次に挑戦すればよいことを経験するのです。このことは後に幼稚園や保育園といった社会の中で、ジャンケンで負けてもゲームで負けてもぐっとこらえて次のチャンスを待つ、といった心の力にもつながっています。自分の失敗を受け入れること、ダメな自分を引き受けすることは、自分を丸ごと肯定して前に進む力であり、同時に相手の失敗を受け入れる度量でもあると思います。

翻って、大人になった私たちの社会はどうでしょう。ネット社会では他者の情報があふれているために過度な競争にさらされて、劣等感を抱いてしまいかがです。著名人のマイナス情報に対しては怒りが暴走して不寛容に偏る傾向も見られます。世界情勢に目を向ければ、先の見えない不確実さや複雑さにあふれていて、誰もが納得する正解を導き出すのは極めて困難です。こう考えてみると、現代を心豊かに希望をもって生きていぐのは決して容易なことではありません。なかなか有効な解決策はないのですが、まずは自分の弱さや無力さを認めること、つまりダメな自分を受け続けることが一つの突破口になるように思えます。先にお話した、小さな子どもたちが日々学んでいる心の力は、私たちこそが今一度認識するべき力なのかもしれません。

LET'Sを彩る 今年のアルファベット

年の瀬にあたり、教育支援センターの1年間を「今年の漢字」ならぬアルファベットで振り返ってみました。今年のセンターは施設移転という開設以来の節目の年となり、多くの方々にお世話になりました。どうぞ皆様、良い年をお迎えください。



- 8月にセンターが移転した小谷地域は、かつて五反田河岸が開かれ荒川舟運の一つの拠点("Base")として栄えました。教育支援センターも、教育・児童福祉の分野で、ささやかながらも確かな拠点になるといいと思います。
- 移転後、Let's教室の最初のレクはバスケットボール。プロの"Bリーグ"並みの盛り上がりでした。調理実習で味わったサツマイモ・大根に含まれるのが"ビタミンB"。疲労回復に効果大でした。
- 夏の猛暑のせいでしょうか。敷地内の植え込みから、蜂の巣が立て続けに見つかりました。蜂は英語で"Bee"です。幸い、被害はありませんでした。



鴻巣市立教育支援センター
〒369-0133 鴻巣市小谷1890番地1
TEL 048-569-3181
FAX 048-569-1773

11月の相談状況 361件

相談内訳

	R7.11月	R7.10月
相談員等の学校等への訪問	153	262
電話	134	120
相談者来所	74	129

主な相談者別内訳

小・中教職員	92	56
小学生	65	70
小学生保護者	59	90
年長児保護者	36	36
さわやか相談員	30	18

主な相談内容

就学	97	68
特別支援	95	76
不登校	89	129
性格・行動	56	181
学業	15	11

『担任連絡会』～お世話になりました～

学期末に当たり、Let's教室に通級する児童生徒の在籍校担任と、オンラインを通じて情報交換し連携を深めました。教室での学習や様々なイベントで前向きに頑張っている様子を直接伝えることができました。



シリーズ 0歳～15歳までの一貫した教育の推進 カウンセリング・マインド



“カウンセリングは「個々の児童生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導」のことを示します。また、相談とは、「相談者が何かの問題に直面し、その解決や処理について困難を感じたとき、それを打開するために他の人に助言等を求める」と言います。しかし、単なる相談だけでは、満足な結果を得られない場合もあります。相談を効果的に進めるには、特別な配慮と技術が必要になります。カウンセリング・マインドとは、カウンセリングを効果的に行うのに必要な心構えのことです。カウンセリング・マインドは、教師の感性の働きに関わるところが大きいと言えます。”

(令和7年度『教師となって第一歩』 埼玉県教育委員会)

原因を追及し病気を治療するのではなく、問題を抱えている児童生徒と関わり、児童生徒の問題を解決する力を引き出すのを援助するのが学校カウンセリングです。

日常、家庭や職場、地域の人たちとの円滑なコミュニケーションのためには、相手を尊重する姿勢が不可欠です。ましてやカウンセリングの場面においては、相談者ががんばりや感情をありのままに受け止め、本人の立場に立って肯定的に耳を傾けることなしには信頼関係は築けません。基本となるのは、「傾聴」「共感」「受容」を意識することです。

①傾聴 …自分の意見をはさんだり否定しないで、肯定的な関心をもって耳を傾けます。

②共感 …あたかも相談者が感じているように聴き、様々な感情を共に体験します。

③受容 …親身な態度を示すことで、相談者は「自分は認められた」という安心感を得られます。



「うんうん。」、「なるほど。」、「それは、とても辛かったですね。」、「〇〇が大事だと考えて△△したんですね。」、「話をしてくれてありがとうございます。」

対応例

12・1月の行事予定

月	日	曜	行 事
12	9	火	Let's教室 カローリング体験
	11	木	教育相談担当者・さわやか相談員連絡会議②
	12	金	ウイング・ステップ担当者研修会③
	16	火	Let's教室 2学期終業式・保護者会
	25	木	まなびの教室 14:00
1	15	木	Let's教室 3学期始業式
	21・22	水木	県立特支高等部職業学科・分校入学選考
	23	金	Let's教室 ALT授業
	29	木	まなびの教室 14:00

※予定は、都合により変更になる場合があります。

Let's教室の2学期